

## 多摩情報センターにおける東日本大震災時の対応について

多摩情報センター長（2011年度）

小野純平（現代福祉学部）

### I.はじめに

2011年（平成23年）3月11日14時46分（日本時間）、宮城県牡鹿半島の東南東沖130kmの海底を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生した。地震の規模はマグニチュード9.0で、日本周辺における観測史上最大の地震であった。法政大学多摩キャンパスにおいては、建造物等の大きな損壊はまぬがれたものの、机上や本棚等から物が落下し破損するなどの被害が出たほか、JR中央線、JR横浜線、京王線などの運転見合わせにより、帰宅困難となる教職員および学生が出ることとなった。本稿では、未曾有の震災における多摩情報センターの緊急的な対応について報告する。

### II.多摩情報センターの対応について

3月11日以降も余震が続き、多摩情報センターが機材の管理等を担当する各情報実習室における機材の安全な運用、災害時の避難について、緊急の検討が必要となった。さらには、3月14日から実施された計画停電の影響により、多摩情報センターが管轄する情報システムについて、その安定的な運用に関する検討が必要となった。特に、停電時においては、情報実習室および一般教室の情報機器が使用不能となるだけでなく、教室内のマイク、スピーカー、照明機器のほぼすべてが使用不能となることから、学生の避難誘導および安全確保に多大な障害が生じることが予想された。

そこで、多摩情報センター長、副センター長および事務課職員を中心に対処策の検討を行ない、3月28日付で「多摩校地における電算実習室およびLL教室での授業およびマルチメディア機器を利用した一般教室での授業実施にかかわる計画停電の影響と対応について」を作成し、多摩4学部の学部長、各学部の事務課および総合情報センター（市ヶ谷地区）に送付した。これらは、大学全体としての検討および統一的な対応が必要な事項を含み、多摩情報センターの管理範囲を超えるものも多くあったが、緊急的な措置として、また大学全体の検討に資する目的で、専門性の高い教職員を擁する情報センターから情報を発信することとした。内容の骨子は以下の通りである。

1. 計画停電予定時間帯に実施される情報実習室およびLL教室を使用した授業の一覧
2. 計画停電予定時間帯に実施される情報実習室およびLL教室を使用した授業への対応について
3. 計画停電予定時間帯における電算機器およびネットワークの停止について
4. ネットワーク停止のタイミングについて
5. 多摩校地停電時における学内外の利用可能なサービスについて
6. 一般教室におけるマルチメディア機器の利用について

また、震災発生時の対応について、情報実習室の特殊性を考慮しながら、『震災発生時の対応について（授業担当者むけ）』を作成し、授業担当者に対して注意を促した（Table 1）。

Table 1 『震災発生時の対応について（授業担当者向け）』

## 【大地震】

- ①学生に呼び掛ける。
  - ・ 「机の下に隠れてください」
  - ・ 「窓から離れてください」
  - ・ 「外に出ないでください」
- ②(できればドアを開け、出口を確保する)
- ③教員自身も机の下に隠れる
- ④揺れが収まったら、被害状況を確認する。けが人が発生している場合は、周囲の学生、別室の教員・学生などとともに介護にあたる。
- ⑤危険が間近に迫っていると感じられる場合(壁や柱・ガラスの破損、火災など) は、ただちに全員一緒に教室から\_\_\_\_\_へ避難する(可能であれば避難前に学生数を確認する。またPC・プリンタ等の電源を切る)。
- ⑥全員が避難したか、負傷者がいないかを確認する。
- ⑦建物、木、斜面から離れるよう指示する。
- ⑧多摩情報センターまたは各学部棟の準備室・事務課に状況を連絡する。
- ⑨大学に指示を仰ぎ解散する。

【連絡先】 多摩情報センター 042-783-2145  
〇〇学部事務課 042-783-xxxx

## 【火 災】

- ①学生や他の教室に大声で知らせる。  
「火事だ!」「119番してくれ」
- ②学生を避難させる(可能であれば避難前に学生数を確認する)。以下を指示する。
  - ・煙を吸わないよう低い姿勢で!
  - ・原則下の階へ避難する。
  - ・周囲の人に知らせる。
- ③初期消火にあたる
  - ・先に避難路を確保する(重要)。
  - ・消火器は廊下にあります。
  - ・消火栓も利用してください。
  - ・消火中も大声で知らせ続ける。
- ③避難する
  - ・炎が天井に届くようになったら避難する。
  - ・部屋中に煙が増えてきた場合は、**ただちに避難する。**
  - ・避難するときは、ドアや窓を閉めて、燃えている部屋の空気を遮断する。
- ④多摩情報センターまたは各学部棟の準備室・事務課に状況を連絡する。

### Ⅲ.情報実習室および情報カフェテリアにおける節電について

情報実習室および情報カフェテリアにおける節電に関して、多摩キャンパス全体での情報関連教室等の運用状況を精査したうえで、授業のない時間帯においては可能な範囲で各実習室の閉室を行い、情報カフェテリア（または図書館学習室）の利用を促した。また、情報実習室および情報カフェテリアに下記の内容を掲示し、利用者に対して節電を呼びかけた。

1. PC利用終了時は液晶ディスプレイ右下のスイッチも切断してください（待機電力削減のため）。
2. 印刷する前に「印刷プレビュー」で内容を確認し、ミスプリントをしないようにしてください。
3. 部屋を最後に出る方は照明、空調、プリンタの電源を切ってください。
4. 自習でPCを利用される場合は、原則として情報カフェテリア（または図書館学習室）をご利用ください（混雑時は係までご相談ください）。

#### IV.まとめ

全学での迅速な対応がなされるなか、幸いなことにその後の余震や計画停電による二次的災害を被ることなく、安定的な運用を図ることができた。しかしながら、震災に対する万全な対策を図るために、緊急性の高い検討課題として以下の事項が考えられる。今後、全学での対応を踏まえた上で、総合情報センターとの緊密な協議を重ねながら、多摩地区における情報システムおよび情報機材の特殊性を考慮した災害対策について、順次検討を行なっていく必要がある。

- ①災害時（特に長時間にわたる停電時）における電源の確保に関する検討
- ②災害時における学生および教職員に対する情報の発信方法に関する検討
- ③種々のサーバー等が学内外に分散配置されている現状での災害時における問題発生の見込みに関する検討
- ④大きな情報機材を有する情報実習室における学生および教職員の安全確保および非難誘導に関する検討

以上